

政策 4 大洗の未来を担う

施策と目指す姿

施策4-1

幼児期の教育・保育の推進

幼児期の教育・子育て環境の充実したまちづくり

施策4-2

徳・体・知が調和した特色ある教育の推進

社会を生き抜く力と自分の夢の実現に向けてチャレンジできる子どもたちの育成

施策4-3

学校・家庭・地域の連携と協働による 安心して学べる環境の整備

学校・家庭・地域の連携による子どもたち一人ひとりに寄り添う教育
子どもたちが安全に安心して学べる教育環境の充実

施策4-4

生涯学習活動の推進

社会教育活動の推進とスポーツ推進事業の充実
芸術文化の振興

施策4-5

歴史資源の保存と活用

郷土に存在する歴史資源を調査・保存し未来に継承
郷土教育や観光資源として活用する意義を住民で共有

人財を育てるまちづくり

まちづくり目標値 [KGI]
現状(令和5年) → 目標(令和10年)

SDGs の目標

①町内の保育環境に対する満足度

37.8% → 70.0%

②子育て世帯への支援体制の充実に対する満足度

66.0% → 80.0%

③大洗町で、今後も子育てをしていきたいと思う方の割合

62.6% → 80.0%



①学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

小学校 89.0% → 90.0%

中学校 84.0% → 85.0%

②夢や目標に向かって努力している児童生徒の割合

小学校 80.0% → 85.0%

中学校 60.5% → 70.0%



①安心して子どもを育てられる環境が整っていると思う保護者の割合

90.8% → 91.0%



①社会教育の推進に対する住民満足度

69.7%(令和6年度) → 70.0%

②成人の週1日以上スポーツ実施率

47.5% → 55.0%

③芸術文化の振興に対する住民満足度

62.8%(令和6年度) → 65.0%



①磯浜古墳群の国指定数量

3基 → 4基



施策4－1

幼児期の教育・保育の推進

目指す姿

幼児期の教育・子育て環境の充実したまちづくり

まちづくり 目標値 〔KGI〕

町内の保育環境に対する満足度

37.8% ⇒ 70.0%

(資料:子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査結果より)

子育て世帯への支援体制の充実に対する満足度

66.0% ⇒ 80.0% (資料:同上)

大洗町で、今後も子育てをしていきたいと思う方の割合

62.6% ⇒ 80.0%

(資料:健やか親子21(第3次)の基礎課題調査より)

施策	重点取り組み指標〔KPI〕	現状値 (令和5)	目標値 (令和10)
4-1-1	保育所等の待機児童数	0人	0人(現状維持)
4-1-4	産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導ケアを十分に受けることができた方の割合	95.7%	96.0%
	子どもに対して育てにくさを感じている方のうち、相談先を知っているなど何らかの解決方法を知っている方の割合	72.4%	90.0%
	小児医療費自己負担	無料	無料
4-1-5	親(養育者)向けの子育て教室の受講者数	3人/年	20人/年

施策分野における課題

- ▷ 多様なニーズに対応した保育環境整備に取り組む必要があります。
- ▷ 少子化により子どもの数が減少していくことを見据え、今後の保育環境整備の在り方について検討する必要があります。
- ▷ 子どもの成長に応じた学びの環境を整備するため、保育と教育の環境をあわせ持つ認定こども園などの保育施設と小学校における保幼少連携の推進が必要です。
- ▷ 学童保育支援員の人員確保や、配慮を必要とする児童に対応できるよう、支援員の質の向上に取り組む必要があります。
- ▷ 核家族化が進み子育てに不安を抱き戸惑う親や家族が増えており、妊娠期から切れ目のない支援を図る必要があります。
- ▷ ひとり親世帯や外国人、ヤングケアラー、発達に課題を抱える子ども等、多様化する支援ニーズへの対応が課題です。
- ▷ 児童相談所や市町村への児童虐待に関する相談件数は、年々増加しており、相談体制の充実や関係機関との連携強化が必要です
- ▷ 本町独自の小児医療費自己負担の無料化等、制度の維持と安定的な運営が必要です。

施策の内容ごとの取り組みと方向性

4-1-1 保育環境の充実 【重点】

- ▷ 生活様式の多様化や働き方改革に対応していくため、新たな制度である、こども誰でも通園制度等の環境整備を推進します。
- ▷ 保育の質の確保をするため、よりよい保育環境の整備を図るとともに、少子化を見据えた、今後の保育環境の在り方についても検討を図ります。

4-1-2 保育施設と小学校の連携と幼児教育・保育の質の向上

- ▷ 保育士等や小学校教諭との相互研修等の場の充実を図ります。
- ▷ 幼児期の早い段階から英語に親しむなど、多様な視点を持つことができる環境づくりに努め、遊びを通じて子どもが自ら学ぶことができるよう幼児教育・保育の質の向上を図ります。

4-1-3 学童保育内容の充実

- ▷ 支援員の確保を図るとともに、児童の発達段階を理解し、寄り添った保育ができるよう、支援員のスキルの向上を図ります。

4-1-4 切れ目のない妊娠・出産・子育て支援 【重点】

- ▷ 大洗町こども家庭センター「ほっと」を拠点に、保育施設、学校、病院、関係機関等と連携し、妊娠期から親子に寄り添い、問題の早期発見・早期対応できる支援体制を推進します。
- ▷ 「親子ふれあいセンターきらきら」を拠点として、関係団体と連携し、親同士の情報交換の場を提供するなど、子育ての仲間づくりと不安解消を図ります。
- ▷ 引き続き県の医療福祉制度により、小児・妊産婦・ひとり親への医療費自己負担の助成を実施するほか、本町独自の小児医療費・自己負担無料化の制度の維持を図ります。

4-1-5 特に配慮を要する子どもや家庭への支援 【重点】

- ▷ ひとり親世帯や外国人、ヤングケアラー、発達が気になる子どもなど様々な配慮を必要とする方々へ寄り添い、関係機関と連携しつつ、問題解決に向けての支援体制を推進します。

4-1-6 児童虐待防止の推進

- ▷ 児童虐待を早期発見・対応するために相談体制の推進や地域ネットワーク体制の充実を図ります。
- ▷ 親向けの子育て教室を通じて、健全な親子関係を築き、児童虐待の予防を図り、子どもの健やかな成長を促します。



Topics 学童保育

放課後において仕事などによる保護者不在家庭への支援や児童の安全確保と健全育成を図るため、公設学童2か所、民間学童施設2か所において、遊びや集団生活の場を提供する学童保育を実施しています。

施策4－2

徳・体・知が調和した特色ある教育の推進

目指す姿

社会を生き抜く力と自分の夢の実現に向けてチャレンジできる子どもたちの育成

まちづくり 目標値 〔KGI〕

学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

小学校 89.0% ⇒ 90.0%
中学校 84.0% ⇒ 85.0%
(資料:全国学力・学習状況調査 小6・中3 より)

夢や目標に向かって努力している児童生徒の割合

小学校 80.0% ⇒ 85.0%
中学校 60.5% ⇒ 70.0% (資料:同上)

施策	重点取り組み指標〔KPI〕		現状値 (令和5)	目標値 (令和10)
4-2-2	体力テスト(A級+B級)の割合	小学校	51.0%	60.0%
		中学校	61.4%	70.0%
4-2-3	全国学力・学習状況調査標準化得点		中学校(数学) 全国平均以上	全国平均 以上
4-2-5	中学3年生卒業時の 英検(実用英語技能検定)3級以上の取得率		33.3%	50.0%
	オンライン英会話の年間延べ受講回数		85 回	130 回

施策分野における課題

- ▷ 子どもたちの生活習慣の習得や規範意識の向上、自らを律しつつ、他者を思いやる心を持つなど「豊かな人間性の育成」は、大きな課題です。
- ▷ 生活習慣の乱れ、デジタル機器の利用時間の増加、運動能力や視力の低下、アレルギー疾患の増加等、様々な懸念が指摘されています。
- ▷ 特別な支援を要する子どもを含め、誰もが一人ひとりに応じた学習機会を得られる体制の充実を図る必要があります。
- ▷ 小学校から中学校に上がるタイミングの「中一ギャップ」が課題となっており、解消に向けて小小・小中・中中の連携体制の充実を図る必要があります。
- ▷ 実践的な英語教育やICT機器を活用した教育の充実により、グローバルに活躍できる人材の育成を図る必要があります。
- ▷ 職業体験・商業体験等のキャリア教育を通して、子どもたちが将来の夢や目標を持てるような事業の展開と自ら学び考えるなど「生きる力」を育むことが必要です。

施策の内容ごとの取り組みと方向性

4-2-1 豊かな人間性を培う教育の推進

- ▷ 多様な体験や学習機会、道徳・人権教育の充実、体験活動・読書活動の推進を図ります。
- ▷ 「あいさつ・朝食の摂取・読書・お手伝い」の実践や各種団体との連携を通して、子どもたちの豊かな心の育成を図ります。

4-2-2 健やかな心と体を育む教育の推進 **【重点】**

- ▷ 学校保健の充実や薬物乱用防止教室等を実施するとともに、学校給食を通して食育を推進するなど、健康の保持・増進を図ります。
- ▷ 遊びを通じた体力づくりと学校体育、運動部活動の充実により、健やかな体の育成を図ります。

4-2-3 確かな学力を身につける教育の推進 **【重点】**

- ▷ 教育活動全体を通して、一人ひとりの発達段階や個に応じた指導の充実を図ります。
- ▷ 学び合い活動や教科横断的な学習を取り入れて授業の充実を図ります。
- ▷ 就学前教育・学校教育の連携により、各段階間を接続する教育活動と、計画的な学びの体制の充実を図ります。
- ▷ 特別支援学校や関係機関との連携を図るとともに、教職員の専門性向上を図り、特別支援教育を推進します。

4-2-4 小中連携教育の推進

- ▷ 義務教育の9年間で連続した期間として捉え、一貫した指導のもと、生活・学習指導上の課題の改善に取り組み、自ら考え、判断し、解決していく大洗っ子の育成を図ります。
- ▷ 学校相互間での授業参観や、合同研修会を通して、小小・小中・中中の連携を図ります。

4-2-5 社会の変化に対応した教育の推進 **【重点】**

- ▷ オンライン英会話の実施等、充実した英語教育を通してコミュニケーション能力を育み、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を図ります。
- ▷ 地域との協働による発展的な科学の学びを創出し、科学への興味・関心を高めるとともに、AI技術等を活用したICT教育の充実を図ります。
- ▷ 一人ひとりの社会的自立のために必要な能力の育成と、地域の歴史や伝統に親しむ教育を推進します。

Topics 大洗サイエンスカレッジ



身の回りの不思議な科学現象を取り上げ、その謎を子どもが自ら予想・実験・考察する放課後科学教室です。

わくわくする不思議な科学現象を、自らの考えで探求しようとする子どもの姿勢を大切に育成することで、未来社会で求められる“主体性”と“問題解決能力”という「生きる力」を培うことをねらいとしています。

施策4－3

学校・家庭・地域の連携と協働による 安心して学べる環境の整備

目指す姿

学校・家庭・地域の連携による子どもたち一人ひとりに寄り添う教育
子どもたちが安全に安心して学べる教育環境の充実

まちづくり 目標値 [K G I]

安心して子どもを育てられる環境が整っていると思う
保護者の割合(学校評価アンケートより)

90.8% ⇒ 91.0%

施策	重点取り組み指標 [KPI]	現状値 (令和5)	目標値 (令和10)
4-3-1	学校・家庭・地域の連携・協働による学校運営ができている と思う学校運営協議会委員の割合	新規設定	80.0%
4-3-4	不登校児童生徒の割合	小:12.4% 中:11.3%	小:10.0% 中:10.0%
	いじめの解消率	70.2%	85.0%

施策分野における課題

- ▷ 家庭・地域がより一層教育に関心と理解を深めるとともに、行政機関やNPO法人・企業と連携した町ぐるみの教育を進める必要があります。
- ▷ 多様な実態に対応する難しさを解決するため、学校・家庭・地域社会が緊密に連携する必要があります、それぞれの立場から積極的に参加・協力を行うことが不可欠です。
- ▷ 信頼される学校づくりのためには、教職員の資質・能力の向上と、積極的な情報発信が必要です。
- ▷ 児童生徒が自らの命を守るために主体的に判断し、行動できる力が必要です。
- ▷ 少子化に伴う児童生徒数の減少により、望ましい学校環境を考えていく必要があります。
- ▷ 義務教育9年間で繋ぐ指導を継続するために環境の維持が必要です。
- ▷ すべての子どもたちへの学習の保障とともに、経済的な理由により就学に困難を抱えている子どもに対する適切な援助が必要です。

施策の内容ごとの取り組みと方向性

4-3-1 学校・家庭・地域との連携・協働

【重点】

- ▷ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、「地域とともに歩む学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推進します。
- ▷ 健全な家庭づくりに向け、行政機関や関係団体と連携し、家庭教育への支援体制の充実を図ります。

4-3-2 信頼・尊敬される学校づくりの推進

- ▷ 教職員の研修の充実、子どもと向き合う環境づくりを推進し、教職員の資質・能力の向上を図ります。
- ▷ 地域への学校公開や学校だより・ホームページ等での広報を通して、開かれた学校づくりを推進します。

4-3-3 学校施設の整備と組織運営の充実

- ▷ 適切な教育を図るため、学校施設の維持・改善に努めます。
- ▷ 学校が作成したランドデザイン(経営全体構想)を基に、地域全体で活力のある学校づくりを推進します。
- ▷ 地域のコミュニティーシンボルとしての活用や校舎内のオープンスペースの活用を進めます。
- ▷ 子どもたちの安全・安心を確保するため、安全に関する計画の作成と訓練等の実施を推進します。
- ▷ 今後の出生数や児童生徒数の推移を踏まえ、PTA・関係機関・地域の方々から十分に意見を聴取し、学校の統廃合などすべての選択肢を視野に入れた検討を行います。

4-3-4 いじめ・不登校等への対策と安全確保

【重点】

- ▷ いじめ・不登校等への対策として、学校と保護者・地域が協力した生徒指導体制や関係機関等の専門家を活用した教育相談体制の充実、問題の早期発見・早期対応等の対策の強化を図ります。
- ▷ 学校と家庭・地域との信頼関係を構築するとともに、就学前から中学校卒業まで連続性のある支援に努めます。

4-3-5 すべての子どもたちへの学習機会の確保

- ▷ 就学に係る援助の充実を図ります。
- ▷ 学校図書や教育活動を充実させる教材の整備を推進します。
- ▷ 学級閉鎖等、あらゆる状況においても、一人一台端末を活用し、「学びを止めない手立て」を推進します。
- ▷ 不登校の児童生徒や外国にルーツを持つ児童生徒への学習支援を推進します。

Topics タブレットを活用した授業



子どもたち一人ひとりが自分の学習状況に応じてタブレットを「文具」として必要な時に必要なだけ使いながら主体的に学習を進めていく学びと、課題解決に向けた対話的・協働的な学び合いによる新しい学びのスタイルを構築し、誰一人取り残すことなく、子どもたち一人ひとりが自分の力を最大限に発揮し伸ばしていく質の高い学びの実現を目指します。

施策4－4

生涯学習活動の推進

目指す姿

社会教育活動の推進とスポーツ推進事業の充実
芸術文化の振興

まちづくり 目標値 〔K G I〕

社会教育の推進に対する住民満足度

69.7%(令和6年度) ⇒ 70.0%

(資料:大洗町のまちづくりに関する町民意向調査)

成人の週1日以上スポーツ実施率

47.5% ⇒ 55.0%

(資料:「大洗町における生涯スポーツに関するデータ」茨城県スポーツ推進課より)

芸術文化の振興に対する住民満足度

62.8%(令和6年度) ⇒ 65.0%

(資料:大洗町のまちづくりに関する町民意向調査)

施策	重点取り組み指標〔KPI〕	現状値 (令和5)	目標値 (令和10)
4-4-1	公民館講座受講者数	209 人/年	250 人/年
4-4-2	家庭教育に関する講演会への参加者	54 人/年	60 人/年
4-4-3	スポーツイベントの参加者数	3,224 人/年	4,500 人/年
4-4-4	プロスポーツチームとの交流イベント数	7回/年	7回/年
4-4-5	老若男女が堪能できる演目を企画する	4回/年	5回/年
4-4-6	体験講座等を開催し、地元の文化活動に触れる機会を創出する	0回/年	1回/年

施策分野における課題

- ▷ 多様化する学習ニーズに応えるため、幅広い学習活動を支援する必要があります。
- ▷ 一人ひとりの生涯にわたる学びを支援し、いきいきと活動できる環境を整備することが求められています。
- ▷ 家庭を取り巻く環境の変化により、地域全体で家庭教育を支えることの重要性が高まっています。
- ▷ 情報技術の浸透により、インターネットを介した問題に青少年が巻き込まれることが増えています。
- ▷ 地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるために、地域コミュニティの活性化や地域の教育力の向上が求められています。
- ▷ 町民のスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、子どもたちをはじめ、若者や働く世代・高齢者が気軽に参加できる運動・スポーツ施策の強化・充実が求められています。
- ▷ 子どもを対象としたスポーツ大会は参加者数が減少しており、子どもたちへの指導を的確に行う指導者の確保や、子どもがスポーツへの興味・関心を持つきっかけづくりが課題となっています。
- ▷ 町内各種スポーツ団体について、認知度向上・会員数の拡大や、持続的な運営が課題となっています。
- ▷ 町主催の芸術文化イベントとあわせ、芸術文化公演の誘致開催に取り組むなど、住民が多様な芸術文化に触れる機会を創出することが求められています。
- ▷ 芸術文化協会会員数は減少傾向にあり、さらには高齢化が進んでいるため、関係団体の活性化や担い手の育成・新規会員の確保が必要となっています。

Topics 北海道洋上体験学習



洋上体験による共同生活や団体行動のなかで、他人を思いやる心や自主性、社会性を養い、また、北海道の大自然にふれ、そこに根付く伝統や文化を直接感じることで、自然を愛する心や豊かな人間性を育み、青少年の健全育成を図ることを目的に実施しています。

高校生会も積極的に事業に参加し、将来の大洗を担う人材の育成にも寄与しています。

施策の内容ごとの取り組みと方向性	
4-4-1	社会教育の推進 【重点】
▷	公民館講座等を継続的に開催することで、学習機会・交流機会の充実を図ります。
▷	住民による自主的な生涯学習活動を行うグループ等の活動支援を実施します。
▷	図書室資料の充実や県内公共図書館と連携を図り、読書活動を推進します。
4-4-2	青少年の健全育成 【重点】
▷	学校・地域・家庭が連携して情報を共有しながら青少年の健全育成を図るための、仕組みづくりを推進します。
▷	教育の出発点である、家庭教育の支援を推進します。
▷	青少年がインターネット上の問題に巻き込まれることが無いよう、啓発を図ります。
▷	自然体験活動や社会体験活動等の体験活動を通して、次世代を担う青少年の育成を図ります。
4-4-3	スポーツ・レクリエーション活動の推進 【重点】
▷	住民のスポーツ実施率の向上を図るため、町主催のスポーツ大会の更なる参加者増を目指し、イベントの効率的な運営に努めます。
4-4-4	スポーツ指導者・団体の育成、強化 【重点】
▷	各種スポーツ関係団体と連携を図り、町内のスポーツ振興や指導者の育成・発掘を目指します。また、子どもたちの部活動指導者としての活用にも繋げていきます。
▷	町内のイベントにおいてプロのスポーツ選手の招致等、子どもが憧れを持ってスポーツを好きになれるような取り組みを実施します。
4-4-5	芸術文化活動の充実 【重点】
▷	町の自主事業として幅広い年齢層を対象とする「大洗音楽祭」、子どもたちを対象とする「芸術鑑賞の集い」を毎年1回ずつ開催しており、今後も継続的な開催を図ります。
▷	プロによる有料公演等も含め、多様なレベルの高い芸術に触れる機会の確保を目指します。
4-4-6	文化団体の活動の推進・支援 【重点】
▷	本町の文化関係の催しを担っている芸術文化協会会員の確保を図るため、作品展示の機会を充実することによって活動意欲を高めるとともに、体験講座の実施など、幅広い年齢層の方が文化活動への興味・関心を持てるような場の創出を図ります。

Topics 大洗マラソンサンビーチ・マイルレース



青少年の健全育成並びに幅広い年代の参加による、地域スポーツの振興を目的とし、大洗サンビーチの景観と環境を活かした、大洗ならではのマラソン大会『大洗マラソンサンビーチ・マイルレース』を開催しています。

距離や年齢により複数部門に分かれており、最短の0.5マイルから、1マイル、2マイル、3マイルの距離ごとに、幼児から高年者までサンビーチの心地よい潮風を受けながら完走を目指します。

※1マイル=約 1.6km

Topics 大洗音楽祭



町主催の音楽祭は、地域に根ざした音楽文化を発信する場として、プロを中心とした地元出身の音楽家や大洗高校マーチングバンド部などが出演をしています。

また、老若男女が楽しめる音楽祭として、民謡からマーチングバンド、ジャズまで幅広いジャンルの音楽に触れられる場となっています。

施策4－5

歴史資源の保存と活用

目指す姿

郷土に存在する歴史資源を調査・保存し未来に継承
郷土教育や観光資源として活用する意義を住民で共有

まちづくり

磯浜古墳群の国指定数量

目標値

[K G I]

3基 ⇒ 4基

施策	重点取り組み指標 [KPI]	現状値 (令和5)	目標値 (令和10)
4-5-2	磯浜古墳群を中心とした埋蔵文化財の常設展示	0件/年	1件/年
4-5-3	史跡磯浜古墳群整備基本計画の策定	未策定	策定
4-5-4	企画展・特別展入館者数(展覧会毎平均)	1,548 人/年	2,100 人/年
	博物館入館者数	9,065 人/年	10,000 人/年

施策分野における課題

- ▷ 地域の歴史を理解するための文化財について、未来に向けた保護を進めるとともに、町民に興味関心を持ってもらうことが必要です。
- ▷ 地域の子どもたちや訪れる人々が埋蔵文化財の重要性や磯浜古墳群の本質的価値を理解できる場所が無いため、常設の展示が必要です。
- ▷ 磯浜古墳群については、史跡整備基本計画を策定し、今後の保存・活用・整備・体制の充実が求められています。
- ▷ 企画展・特別展を開催していますが、興味関心を持ってもらいやすい展示の実施と博物館を知ってもらう効果的な情報発信が課題です。

施策の内容ごとの取り組みと方向性

4-5-1 文化財の保護活用

- ▷ 地域の祭りや磯節などを未来に繋げていくため、所在する文化財を総合的に把握し、保存活用地域計画の策定を進めるとともに、文化財の活用を図ります。

4-5-2 埋蔵文化財の保護活用

【重点】

- ▷ 埋蔵文化財の保護を図るため、開発に伴う保護策を講じ、出土遺物の保存管理の充実に努めます。
- ▷ 磯浜古墳群を核とした収蔵・公開施設を検討し、考古学企画展やシンポジウムを実施します。

4-5-3 史跡磯浜古墳群の整備

【重点】

- ▷ 訪れる人々が磯浜古墳群の持つ本質的価値に気付き、未来へと継承していくため、保存活用計画に基づきながら、史跡の公有化を図り、整備基本計画の策定を進めます。
- ▷ 史跡への分かりやすい誘導看板や説明板の設置、Web を用いた情報発信などを通して、案内機能の充実を図ります。

4-5-4 歴史文化の普及

【重点】

- ▷ 企画展・特別展を継続して実施するとともに、ミュージアムコンサートの開催やホームページ・SNS の活用による情報発信により、認知度の向上と普及活動を推進します。

Topics 史跡 磯浜古墳群の価値



令和2年3月10日に国の史跡として指定された磯浜古墳群。日下ヶ塚(常陸鏡塚)・車塚・姫塚古墳など、6基の古墳より構成される、3～4世紀代に築造された古墳群です。

中央のヤマト王権との密接な関係を持ち、東国への古墳の波及を考える上で重要で、約100年間にその形を変えながら造り続けられる、本町にとって大切な歴史遺産です。